

令和7年度 第1回「富富富」戦略推進会議 概要

日 時 令和7年8月5日（火）15:00～16:30

場 所 富山県民会館8階バンケットホール

出席者 別紙名簿のとおり

1 開 会

2 あいさつ（延野会長、津田農林水産部長）

3 協議事項

- （1）令和8年産「富富富」生産者募集について【資料1】
- （2）令和7年度「富富富」PR事業について【資料2】
- （3）「富富富」戦略推進会議設置要領の改正について【資料3】

- ・生産者募集について案のとおり進めること了。
- ・PR事業について案のとおり進めること了。
- ・設置要領の改正について、了。

《質疑》

- A委員 ・ 備蓄米や加工米など主食用でない用途への要件緩和は、良いように思うが、主食用米として戦略推進会議でブランド化についてはどう考えるのか。
- 回答 ・ 募集要件の変更（用途の拡大）については、米だけで転作を考えている生産者へのニーズに応じるため、新規需要米・加工用米・備蓄米の制限をはずすことが趣旨。
- A委員 ・ 生産者のことを考えての変更であることは理解した。

4 各委員からの主な意見

- B委員 ・ 1万 ha への生産拡大について、目標に向かって7年産も増えているのは喜ばしいこと。実際、富山は暑いと感じる。7年産も5年産の再来を思わせるような状況であり、渇水・高温障害が懸念される。
- ・ 玄米を精米する際、高温障害を受けた品質の悪いコメは歩留まりが悪く、今回のコメ不足の一因と思う。高温耐性品種である富富富は、高温下でも品質が良く、歩留まりも良い。
- ・ そういった意味でも富富富が増えることは、主食用の全体の量確保に向けても理にかなっている。
- ①8年産へ向け、種子はどれくらいまで確保できているのか。
- ②経営体数が減っている地域がある。減少の要因は何か。
- （回答） ①8年産の種子量は、直播等により面積の幅はあるが、少なく見積もって4000haから5000ha分は確保している。
- ②各農協が独自に推す品種もあり、比較して富富富以外の品種を選ばれたものと推察。増減はあるが、全体として見て経営体数・面積は着実に増加している。
- C委員 ①栽培面積を1万 ha に持っていくために、具体的にどのようなことを実施するのか。

②高温耐性品種といっても、タンパク含有率の基準もあり、追肥など、判断を誰がどのように行うのか。

- (回答) ①生産拡大乾燥調製施設整備支援事業で、乾燥施設としての整備も進めている。乾燥機が制限要因とならないよう推進している。また、湛水直播栽培などのモデル実証の取り組みをはじめ、収量向上に向けた技術対策も周知し、生産拡大へつなげる。
- ②タンパク含有率はその基準を満たさなければ富富富として販売できないという運用ではないが、収量が落ちることのないよう生育に応じて、色が淡い場合の追肥など、技術協議会毎の技術的対策を徹底していただきながら、タンパク含有率が一定程度の幅になるよう対応していく。

- D 委員
- ・富富富について、県民はよく知っている。また、消費者が米を選ぶポイントは、価格、安全・安心、銘柄と産地、の3点と考えている。
 - ・今年のようなコメ不足からの米価高騰となると、価格重視に流れる傾向が強い。
 - ・戦略が目指す姿として、家庭の需要割合が高いため、家庭での消費を増加させる必要がある。減農薬も大きなポイントであるため、そのような点を家庭用消費者へPRしていく必要がある。
 - ・小中学校での富富富提供は素晴らしい取り組みのため、是非続けていただきたい。また、高校や大学でも、食堂や調理実習などに取り入れてはどうか。

- E 委員
- ・富富富飲食店フェアは良い取り組み。参加飲食店数は増えているのか。
 - ・フェアだけのスポット取引だけではなく、継続的につながっているのか。
 - ・寿司と言えば、富山。どれだけ寿司店で使われているのか。

- (回答)
- ・飲食店フェアへは 30kg の富富富を無償提供し、店側で富富富使用していることをPRしていただいている。参加飲食店は、年々増えてきている。
 - ・県外は流通ルートの面で継続できない課題があるが、継続して使いたいという意向の飲食店は多く、課題ととらえている。
 - ・寿司店では、シャリの変更は店舗によりハードルが高いが、県内の富富富を利用している寿司店舗は増えている。

- F 委員
- ・富富富は高温にも強く、安定した品質のものが生産されるため、需要は伸びてくるのではないか。
 - ・富富富はコシヒカリよりあっさり、冷めてもおいしい、特に和食によく合うという声を聞く。「あっさりしすぎている」という声もある。おいしい米を炊くため、水の分量をしっかりと量ることや洗う作業工程も大切。美味しい炊き方の情報も発信できれば、一般家庭での需要拡大につながるのではないか。

- G 委員
- ・コメ離れが進んでいると感じている。日本食、西洋料理でもステーキやハンバーグなど、米に合う料理がたくさんあるが、とても残念。
 - ・コメからパンへ移行する人の中には、ジャンクな食べ方をする人が多いため、そうならないためにも食育をしている。料理とともにどう食べると米が美味しいか、情報発信が必要。
 - ・生産コストを下げるためにも、直播などの低コスト栽培を進めることは良い。
 - ・パンと米が比較されることも多いが、価格的にそこまで大きく変わるものではないため、料理の仕方や食べ方をしっかり教えていきたい。

- H 委員
- ・これまでは富富富の差別化やブランド化について議論されてきた。新しいキャッチコピー「笑顔ひろがる、毎日「ふふふ。」」も決まり、全国的な富富富の認知度向上を図ることが重要。
 - ・また、家庭で食してもらうことを想定すると、常に消費者の目の前にあることが重要。小売り・流通の方々には協力をお願いしたい。

- ・県外での量販店の試食等の取組み予定があったが、県内の量販店でも店頭での PR にも注力してもらえると、より手に取ってもらえるため、取組みを増やしてほしい。
- I 委員
- ・東京在住だが、スーパーの米が高くなった。しかし、備蓄米が安いからと言って、売れているわけではない。5kg も買って美味しいと思えなければ食べきれないため、若い世代でも銘柄米を購入している場面をよく見かける。物価が上がっており、外食も大変高くなっているため、家庭用の需要が増えている。ある意味チャンスタイミングでもある。富富富の県外での周知を拡大していただきたい。
 - ①今後、新規需要米・加工用米への用途も可能となったが主食用米以外の用途の場合、異なる栽培基準を設けることは検討しているのか。
 - ②また、収量の技術実証について聞かせていただきたい。
- (回答)
- ①新規需要米・加工用米について、別基準については特に設けない。各地域協議会等で、収量安定確保に向けた技術指導の徹底を進めていく。
 - ②技術実証では、令和 7 年度の新規事業であるモデル産地育成支援事業を活用し、直播栽培の現地実証のほか、肥料試験など、生育経過や収量を確認している。
- J 委員
- ・家庭用の需要拡大に向けては、子供を取り込むことが重要。子供を切り口に親が購入する仕組みを進めると良いのでは。
- K 委員
- ①今回要件緩和された直播も農薬成分基準は同じ 12 成分か。
 - ②富富富をコシヒカリより高く販売していると、コシヒカリを選択される。依然としてコシヒカリ人気も強い。コシヒカリを大きく押しのける必要があるのか。
- (回答)
- ①直播も 12 成分で同じ。
 - ②販売価格については、県で決める話ではないが、流通のみなさんとも意見交換しながら進めていく。
コシヒカリの需要はあるため、全てを無くす計画でない。温暖化に強い産地を目指すために、富富富の拡大を図っていく。
- L 委員
- ・令和 5 年産は「酷暑」、令和 6 年産は「酷暑」＋「カメムシ被害」、令和 7 年産は「酷暑」＋「水不足」というように、年々過酷な生産環境となっている。下記 3 点について検討等を進めていくべき。
 - ・1 点目：地域協議会毎の指導はおおいに進めるべき。ただし、栽培マニュアルは H30 年の気象条件をもとに作られたことを考えると、今の環境に合わせたマニュアルに更新する時期ではないか。
 - ・2 点目：富富富の多くは肥効調節型の肥料。これは現在の気象条件に合っているのか、成分の見直しなど、改良を進めたい。
 - ・3 点目：病虫害防除の農薬 12 成分以内の基準のなか、薬剤体系を改めて考えなければいけない時期に来ている。地域毎に、各振興センターからもアドバイスしていただいているが、カメムシ防除など今の状況に合ったものへの変更が必要である。
 - ・PR では、手に取ることができることが、大事という意見があったが、同感。富富富玄米茶を民間企業の協力を得て発売し、ブランド名周知にも寄与。
- M 委員
- ・1 万 ha への拡大に向けて、貴重な意見を頂戴した。
 - ・生産者にとって、コシヒカリから富富富への切替は、相当の覚悟が必要で、強制できるものでもない。県では、乾燥施設の整備、収量をあげる技術対策など、生産者につくってもらえる環境の支援を進めて、生産拡大につなげたい。
 - ・生産と消費は両輪として取り組むことが重要と考えており、消費側の取組みとして、飲食店でも使ってもらう、家庭で使ってもらう需要拡大を推進。昨年のキャッチコピーもそうした思いを込めて作った。
 - ・学校給食は食べるだけでなく教育の一環として、おいしさの他、富富富の環境にや

さしい面なども、周知する取組みをしている。それが家庭に広がって、富富富を食べようという好循環につながると良いと考え、仕組んでいる。

- ・県外での認知度を上げることは大事であり進めているところであるが、コメとして出回る量が無ければ、認知が進まないで、まずは生産拡大を進める。生産拡大が進み、出回り量を増やし、認知度も上がる。
- ・販売価格の意見についても意見をいただいた。生産者にとって何らかのインセンティブがないと生産拡大がつかないとして生産者米価が高く設定されている。（個人的な見解ではあるが）今後、肥料・農薬が少なく済むなど低コストにつながるとか、必ずしも生産者米価に寄らない点にインセンティブになればいいと考えている。

5 閉 会